

いくだみ

県立長崎図書館だより

No. 160
2010年2月

長崎県立長崎図書館所蔵資料のご紹介

◎『しかけ絵本』をご存知ですか？

ページを開いたり、つまみを引いたりすると絵の一部が立体的にとびだしてきたり、しかけを回したり子どもだけでなく大人もドキドキワクワクする「しかけ絵本」についてご紹介します。

しかけ絵本のはじまりは、13世紀から14世紀のヨーロッパといわれています。17世紀までは主に天文学や医学など学術用のもので円盤型が主流でした。19世紀になると子どものためのしかけ絵本が作られるようになりました。イギリスではしかけ絵本を専門に手がける出版社もでき、ドイツではリトグラフで多色石版刷りの手の込んだしかけ絵本が生み出されました。

「しかけ絵本の父」といわれているローター・メグゲンドルフアーは、息子へのクリスマスプレゼントにしかけ絵本を作ったのをきっかけに、作品を作りました。



出典：とびだししかけ絵本「オズの魔法使い」
ロバート・サブダ作／大日本絵画

1つのつまみを引くと複数のしかけが同時に動く複雑なしかけのものを考えました。パノラマの技法が使われている『インターナショナルサーカス』は、しかけ絵本の最高傑作といわれています。20世紀になると、飛び出すしかけの絵本が大人気となり、しかけ絵本が生まれる舞台はヨーロッパからアメリカへと移りました。「ポップアップ」という言葉は、アメリカのブルーリボン社によって初めて使われたそうです。現在では、“紙の魔術師”と呼ばれるロバート・サブダ氏のポップアップ絵本が人気です。『オズの魔法使い』、『不思議の国のアリス』など子どもだけではなく大人も楽しめるポップアップ絵本です。

本館にも各種しかけ絵本がございます。ぜひご来館していただき、子どもの頃を思い出して、またはお子様と一緒にしかけ絵本を楽しんでみてはいかがでしょうか。



出典：とびだししかけ絵本「不思議な国のアリス」
ロバート・サブダ作／大日本絵画

もくじ

● 所蔵資料の紹介	P1
● 長崎ゆかりの文学展	P2
● 第2・3回県立長崎図書館講座	P2
● 職場体験・職場訪問	P2
● 長崎県公共図書館等協議会表彰団体の紹介	P3
● こども大会	P4
● 県立長崎図書館ホームページの紹介	P4
● 県内公共図書館職員からの声	P5
● お知らせ等	P6



2010年は『国民読書年』

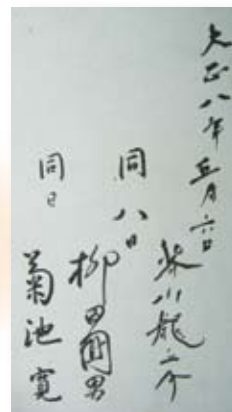


「長崎ゆかりの文学展」を好評開催中です

県立長崎図書館は平成24年に創立100周年を迎えます。その歴史を刻む貴重な当館芳名録の中には、芥川龍之介・柳田国男・菊池寛等が来館した折の芳名録も含まれています。

そこで、今年度第4回長崎ゆかりの文学企画展では、「収蔵品展 県立長崎図書館を訪れた文人たち～大正期の芳名録を中心に～」と題して、10名の文人の直筆を一挙公開し、長崎との関連について紹介します。

4月11日（日）まで、当館4階の郷土資料展示室において開催しています。この機会に、文学史に名を残す文人たちの筆跡を通して、長崎の文学の豊かな香りをお楽しみください。



県立長崎図書館講座

～好評のうちに終了。来年度もご期待ください～

8月22日（土）本館講堂において、島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局長の杉本伸一氏と、県教育センター主任指導主事の寺井邦久氏をお招きし、対談「世界ジオパークをめざして～島原半島ジオパーク～」と題する第2回県立長崎図書館講座を開催しました。平成20年10月、日本ジオパーク第1号に認定された島原半島の魅力について、科学的な見地からわかりやすく解説していただき、本県の貴重な財産を知る機会になりました。翌23日には、世界ジオパークにも認定され、世界的な評価を得ることになりました。

受講者からは、「専門家の分かりやすい話で体系的な学習ができた。」などの感想が寄せられ大変好評でした。

11月28日（土）には、対談「長崎の短歌を語る～斎藤茂吉・中村三郎・竹山広を中心に～」と題して第3回県立長崎図書館講座を開催しました。講師には、長崎市在住の詩人で活水女子大学教授の田中俊廣氏と、歌人で前長崎歌人会会長の久保美洋子氏をお招きしました。万葉集の時代から現代まで脈々と受け継がれてきた長崎の短歌のすばらしさを、茂吉・三郎・竹山の秀歌を通して、分かりやすく情感豊かに語っていただきました。

「講師の先生方の語りがきれいで、深い研究をされていて、すばらしい講座でした。」などの受講者からの感想があり、こちらも大変好評でした。

本館では、来年度も3回の県立長崎図書館講座を開催する予定です。どうぞご期待ください。



職場体験・職場訪問を通して、 多くの実習生を受け入れています

今年度は、これまでの中学・高校に加えて、大学院や大学からも多くの実習生が当館を訪れました。中学校から5校・13名、高校から6校・30名、大学から4校・6名、大学院から1校・1名を職場体験や司書実習、臨床実習、職場訪問等で受け入れることができました。

今年度は初めて大学生のインターンシップを受け入れ、実習の前後には館長講話や実習生によるプレゼンテーション等を実施しました。スキルだけでなく、社会人としての自覚や責任についても深く考える契機になったとの感想に、職員も大変充足感を覚えました。今後も県民の一人として、当館を支援し、若者らしいアイデアを提供してくれるものと期待しています。



長崎県公共図書館等協議会表彰団体の紹介

今年度から、県内公共図書館等の発展に貢献する活動で、特に優れた実践を行っている団体を「長崎県公共図書館等協議会」が表彰するようになりました。

■ 諫早市 諫早図書館利用者団体連絡協議会 ～図書館づくりは街づくり～

現在の構成メンバーは、諫早市内の図書館に関わる22の利用者団体の連合体で、メンバーは約1,000名です。前身の「諫早としょかんづくり市民ネットワーク（1997～2002）」は、10団体が集まって諫早図書館の新館建設に関する提言や学習会、建設現場見学会等を企画し、また本会から基本計画委員会の委員として参加しました。

2001年新館完成後の2002年に「市民の願いを集めてつくりあげられた諫早図書館の限らない発展のシンボルとしてピアノを贈ります」という銘文と共にグランドピアノを寄贈後、発展的に解散しました。ピアノは諫早図書館の入口で毎朝の始まりと夕方のさようならの曲を奏で、またコンサート等のイベントでも活躍中です。

その後、2002年10月に「図書館づくりは街づくり」の理念を軸に、各団体と図書館との情報交換の場として、前身の10団体から新しく活動を始めた団体も参加して22団体に発展し、新しく活動を開始しました。

現在の活動状況としましては、

○毎月1回第3水曜日に、諫早図書館ボランティア室にて例会

○毎年1回、諫早図書館との共催事業として「諫早としょかんフェスティバル」を企画・運営

○「子ども読書諫早プラン」推進会議委員として、利用者の立場から参加

などです。今回、賞をいただいて会員一同、改めて身の引き締まる思いです。私たちの街の「いつもステキなワクワクする出会いの広場」である図書館と共に、これからも歩いていこうと思います。

（文責 諫早図書館利用者団体連絡協議会）



諫早としょかんフェスティバル(としょかんたんけん隊)

■ 西海市 図書ボランティアグループ「みちくさ」

子どもたちが本を好きになり心豊かに育つことを願い、西海市立大島西小学校図書ボランティアグループとして、平成16年7月に結成しました。大島西小学校の保護者を中心に常時活動の4名と協力者で活動しています。大島町内の小学校や保育園・図書館などでの読み語りや大島西小学校図書室の装飾を主な活動としています。

○小学校の「朝の読書の時間」に定期的に読み語りを入れてもらうことで、子どもたちに確実に本と出合う時間を持たせることができました。先生方が読書活動に理解を示してくださり、子どもたちと一緒に読み語りを聴いてくださっています。先生方のこのような姿勢に私たちのボランティア活動も支えられてきました。

○小学校での読み語りに図書館の司書さんが参加してくださることにより、本を幅広く紹介することができ、子どもたちの読書意欲を高めることができました。また、移動図書館が始まり、子どもたちも図書館を身近に感じているようです。

○西海市では、平成17年度から20年度まで図書ボランティア講座が開かれました。この講座で学んだことを、日々の活動に活かすことができとても良かったです。ボランティアの研修の場は少ないので、行政のこのような援助はとてもありがたいです。

活動をしていく上で次のような課題もあります。

○仕事を持ってる人が多く、なかなかメンバーを増やすことができない現状にあります。

○他のボランティアグループと情報交換・交流をすることによって、図書ボランティアの活動を更に充実・継続させていきたいと考えています。

（文責 図書館ボランティアグループ みちくさ）



恒例「子ども大会」について（参加者約100名にて盛会に終了）

平成21年12月5日（土）に「こども大会」を開催しました。当日は子ども達や、保護者、合わせて約100名の方々にご参加いただきました。パネルシアターや大型絵本の読み聞かせ、人形劇などたくさんのおし物があり、とても楽しい会となりました。

特に諫早市のキャロット劇団による人形劇は普段なかなか見る機会が少ないこともあり、みなさんにとっても喜んでいただきました。大会の最後にはサンタさんから手作りのクリスマスカードのプレゼントもあり、子ども達には少し早いクリスマスとなったようです。来年度も同じ時期に本会の開催を予定しています。次回も多くの方々のご参加をお待ちしております。

当日のプログラム

・パネルシアター

「すうじのうた」

・大型絵本

「ぴっけやまのおならくらべ」

「ちからたろう」

・人形劇

「6ちゃん」

「きつねのしっぽい」



ようこそ県立長崎図書館ホームページへ

ホームページの5つの特色 ～県民が求める資料・情報を迅速に提供するために～

資料検索・横断検索機能

県立長崎図書館の蔵書85万冊はもちろんのこと、県内の公共図書館及び大学図書館の蔵書についても一度に検索することができます。（公共図書館15館、大学・高専10館が参加し、約790万冊を検索可能）

また、平成19年2月1日以降の長崎新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞の各紙における「郷土（長崎）関係記事」の見出し検索もできます。（総数約9万件）

予約機能

借りようとする資料が、他の利用者へ貸出中の場合、その資料を『予約』することができます。

※ただし、貸出中の資料を予約するためには、「利用登録」と「パスワード」が必要です。詳しくは本館ホームページの利用案内又は職員へおたずねください。

レファレンス申込サービス

利用者からのご質問にお答えするため、レファレンス（調査・相談業務）の申込をホームページでも受け付けております。

なお、過去にお問合せのあったものから、「レファレンス事例集」として取りまとめ、掲載しておりますので、併せてご利用ください。

図書館ニュース

本館及び県内の各図書館で開催される大会や講演会等のイベント情報、休館情報等の各図書館の情報・ニュースをお知らせしています。



郷土ライブラリー

「長崎ゆかりの文学」をはじめ、本県にゆかりのあるコーナーを多数ご用意しております。ぜひ一度ご覧ください。

(収録コンテンツ) 郷土ゆかり作家の紹介

本館で所蔵する長崎県行政資料の紹介

本館で所蔵する明治35年以降の郷土新聞の紹介
など



県内図書館職員からの意見紹介

～市町立図書館から見る県立長崎図書館について～

佐世保市立図書館職員 豊里恵子さん



てんません:手漕ぎの木造和船

佐世保にいと直接県立図書館へ出向く機会はありませんが、相互貸借や高度なレファレンスなどで毎月何度もお世話になっています。月に2回巡回してくださる協力車の皆さんには、本と共にいつも笑顔と元気をいただいています。

先日はこんなことがありました。伝馬船を自分で作りたいというご要望があり、佐世保は港があることから海や造船関係資料には収集に力を入れているのですが、タンカーや大型船・ヨットなどの図面が載った本はあるものの伝馬船のような小型船の図面がある本は所蔵していませんでした。(サバニの小さな見取図だけやっと見つけましたが)

そこで県立図書館にご相談したところ、すぐに関係する資料を10冊程お送りいただき、更に「もっと詳しい本が必要なら大学にも聞いてみます」とも。その後利用されたお客様からは感謝の言葉をいただきました。

市町立図書館は市民・町民に直接サービスを行いますが、単独では限界があります。市町立図書館がよいサービスを行うためには、膨大で豊富な資料があり、それを有効に使いこなす職員の方々がおられる県立図書館のバックアップが不可欠なことは言うまでもありません。いざというとき頼りになる懐の深い「お母さん」のような存在が県立図書館だと思います。

県内全域にサービスをされる県立図書館のご苦労は計り知れないものがありますが、県立及び市町立図書館更には大学図書館がそれぞれに協力し合って県民・市町民の方々のお役に立てる・必要とされるより良い図書館づくりに一緒に励みたいと思います。(お世話になることばかりが多いのですが、時には親孝行したいと思っています、お母さん。)

大村市立図書館職員 鈴川章子さん

「お尋ねの本は、県立図書館にあるので、お取り寄せしますね」「申し訳ないから、いいですよ」これは、当館カウンターでの、よくある利用者との会話です。県立図書館の職員の方々が、日常の業務に追われながらも、県内の市町立図書館のバックアップのために奮闘されているのですが、残念なことに『県立図書館は県民のためにある』という意識が、まだ一般には浸透していないのが現状です。

県立図書館は県内の公共・大学図書館との相互協力体制(横断検索システムなど)を構築するなど、長崎県内の図書館がより連携を強めていくことに尽力されています。この図書館のネットワークをどんどん活用して、利用者へも県立図書館の存在意義を広めていければと思います。



県立長崎図書館からのお知らせ

今年2010年は、「国民読書年」です。

2010年(平成22年)を「国民読書年」とすることが平成20年6月の国会で決議されました。この決議では、読書の街づくりの広がりや様々な読書に関する市民活動の活性化など、読書への国民の意識を高めるため、国をあげてあらゆる努力を重ねることが宣言されています。

※「文字・活字文化振興法(2005年7月)」の公布施行5周年を記念して制定されたものです。

この「国民読書年」の制定を契機にお近くの図書館や図書室等へふるって足を運んでいただき、文字・活字文化を身近なものとしてより活発に読書に親しんでください。

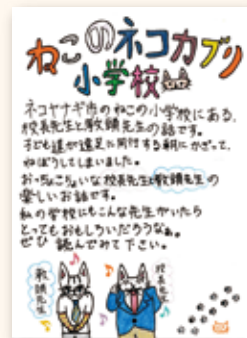


長崎発読書郵便集 第2号の発行について

長崎県教育委員会では、平成21年2月に「すべての子どもがいつでもどこでもみずから読書に親しむ環境づくりをめざして」、『第二次長崎県子ども読書活動推進計画』を策定いたしました。

これを受けて、昨年度取り組みました「長崎発読書郵便集」作成事業を、今年度は県内公共図書館と連携して県内全域で実施しました。本を心の栄養として子どもたちに生きる力を育ててもらい、出会った感動を同世代の子どもたちや先輩・後輩に伝える方法の1つとして、『長崎発読書郵便集 第2号』を作成いたしました。

この冊子を1人でも多くの子どもたちが手に触れ、「本との出会い」の契機になり、同世代の子どもたち同士、引いて次世代の若者達が読書で得られた感動を大人も一緒に感じていただければと思います。



●子ども読書の日(毎年4月23日)

●こども読書週間(毎年4月23日～5月12日)

一部資料移転に伴う資料取扱について

所蔵資料の増加に伴う書庫スペースの確保のため、一般資料の一部を長崎市茂木(旧県立長崎南商業高校)等へ移動しました。

移転資料の利用に際しては、資料提供に最大1週間程度お時間がかかることになり、ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

詳しくは本館ホームページ(トップページニュース欄)でご確認ください。

催し物のご案内

「長崎ゆかりの文学展」

場所 県立長崎図書館4階郷土資料展示室

日時 9:30～17:00(ただし休館日を除く)

内容 常設展:「長崎文学散歩」(開催中)

企画展:「長崎の芥川賞作家たち
～野呂邦暢(没後30年)を中心に～」
(4月27日(火)～6月27日(日)まで)

平成22年度「第1回県立長崎図書館講座」

場所 県立長崎図書館2階講堂

日時 平成22年5月22日(土)13:30～15:30

内容 対談「長崎の食文化」(仮題)

講師 脇山順子氏(元長崎女子短期大学教授・料理研究家)

坂本洋司氏((社)全日本司厨士協会長崎県本部理事長)

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号

ISSN 1344-5235 ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp>

R70 この広報誌は、環境に配慮した再生紙を使用しています。